

蔵出しお宝ニュース

— 第 44 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長く眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

大河ドラマ 軍師官兵衛 番組パネル展 開催中！

平成 26 年 11 月 1 日（土）～11 月 16 日（日）まで、資料館 1 階展示室にて「大河ドラマ 軍師官兵衛 番組パネル展」を開催しています。



11 月 2 日（日）に放映された第 44 話の本編終了後、物語のゆかりの地などを紹介する「官兵衛紀行」で三原市が紹介されました。三原城主・小早川隆景も番組に登場しており、NHK 広島放送局のご協力での展示を行う運びとなりました。

展示内容は「軍師官兵衛」の番組パネルおよび、小早川隆景役の鶴見辰吾さんが実際に撮影で使用された衣装や兜・太刀です。

また、三原市ふるさと大使として馴染み深い谷原章介さんが竹中半兵衛役で「軍師官兵衛」に出演されており、三原市所蔵の谷原章介さんのサイン色紙や写真を展示しております。

その他に矢形勇 作の小早川隆景像、宗光寺所蔵・紙本著色小早川隆景画像の古写真（複製）、小早川家紋所の左三つ巴をあしらった作品もんどころ ひだり み どもえもあります。

なかなか間近に見ることのできない展示内容ですので、この機会にぜひご来館ください。

（左）展示の様子



資料館マメ知識 「三原物」とは？ 其の3

江戸時代になると風紀取締りのため、登城時に佩用する刀と脇差（大小・登城差・袴差などの表記あり）の寸法が定められました。刀は刃渡り2尺3寸（約70cm）、脇差は1尺4・5寸（約42～45cm）くらいが基準となりましたので、この時期に古刀の多くは磨り上げられました。三原物は“折れず・曲がらず・よく切れる”のと、人に見せて恥ずかしい作品ではないが、全国的には大和伝の地方出来というイメージがあったため磨り上げられ、普段差として用いられました。よって生ぶ茎・在銘作品の評価は高く、貴重です。

なお、現在の三原地方では“三原刀”と呼ばれることが多いですが、この名称は主に戦後から使われ出されたようで、学術的・全国的・刀剣界では古くから“三原物”，あるいは単に“三原”と呼ばれています。

刀鍛冶は原則口伝で技を伝えるため、江戸時代初期に三原物の刀鍛冶が絶えて以降、残念ながら歴史的なことや詳細が判然としないことがほとんどです。現在の三原市内で遺構として残っているものは、糸崎にある正家の屋敷跡と井戸、三原駅北側の三原城鍛冶曲輪跡です。

※ 磨り上げ…刀が長すぎるため、茎を詰め、刃区を切っ先側に送って刀身を短くすることです。室町時代末期頃から江戸時代全般を通じて行われましたが、その理由としては万一斬り合いになった場合、新刀よりも古刀の方が鍛えもよく、実践向きであるため。また、新たに刀を注文できるほど裕福な武家は限られており、やむなく先祖伝来の刀剣の中から妥当なものを磨り上げて差料としたためです。

三原物の系譜 2

ときふさ
辰房（たつぼう・たつふさ）

尾道を拠点に活躍しました。

「辰房」は姓や地名とする説がありますが、詳しいことはわかっていません。

かい みはら
貝三原

銘に「貝」を入れることが多い刀鍛冶の一派です。この「貝」については、尾道市御調町の貝ヶ原・三原市内の貝野などの地名に由来する説と、刀鍛冶の姓とする説などがありますが、詳しいことは現在わかっていません。ただし「備州三原貝住〇〇」のように銘を切らず、「備州三原住貝〇〇」のように銘を切ることから、刀鍛冶の姓に関係したものかもしれません。

日本刀は豊臣秀吉の刀狩り、明治維新後の廃刀令、戦後の進駐軍による没収と、3度の受難で本数が減りました。しかし、現在でも三原物は全国に知られ、博物館や愛好家などの所有者によって大切に伝えられています。三原市外の博物館で行われる刀剣展を訪ねた時、「三原」の銘が切られた作品に出会うこともしばしばあります。

往時の刀鍛冶たちも、温暖で海と山が近く、何より水の澄んだ三原の地を愛していたのでしょう。

三原物は中世の三原が育んだ鉄の文化です。

発行 平成26（2014）年 11月7日
〒723-0015 三原市円一町二丁目3番2号
三原市歴史民俗資料館
TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用されないようお願い申し上げます。